

平成30年度 経営発達支援計画 事業実施評価表

津幡町商工会

指針別項目	事業内容	事業の目標	評価
地域経済動向調査	景気動向調査、金融動向調査、開廃業調査	地区内事業者を対象として業況等について調査を行い、小規模事業者の現状について把握する。その情報を、事業計画策定事業者等へ提供するほか、今後の小規模事業者支援に活用する。	A
経営状況の分析	巡回や窓口での財務状況の分析	事業計画を策定するうえで、小規模事業者の財務状況等（収益性・生産性・安全性・資金繰り状況等）について分析する。	A
事業計画の策定支援	事業計画の策定（補助金申請以外）、各種補助金等の申請に係る事業計画策定	巡回や窓口での経営・金融相談を通じて、経営問題を抱える小規模事業者の掘り起しを行い、課題解決のための事業計画策定を支援する。	A
	創業計画の策定	創業予定者の円滑な開業をサポートするため、当会経営指導員および中小企業診断士等の専門家派遣による助言・指導を通じて、実現可能性の高い創業計画書の作成を支援する。	A
事業計画策定後の実施支援	事業計画の策定（補助金申請以外）、各種補助金等の申請に係る事業計画策定後のフォローアップ	経営指導員が巡回等にてフォローアップし適宜指導・助言すること で、事業計画の実施を確実に履行する体制を整備する。	A
	創業計画の策定後のフォローアップ	経営指導員が巡回等にてフォローアップし適宜指導・助言すること で、創業計画の実施を確実に履行する体制を整備する。	A
需要動向調査	需要動向に係る情報提供	事業計画の策定前後に、商品・サービスの販路拡大に必要な需要動向を把握するために、商品・サービスの売れ筋情報やトレンド情報を収集・分析して、小規模事業者に提供する。	A
新たな需要開拓に寄与する事業	物産展・イベントへの出店	県内および全国への販路開拓・拡大に寄与することを目的に、商工会をはじめとした各支援機関や金融機関等のマッチングイベント・物産展を紹介したうえで、出展支援を行う。	A
	販路開拓に資する取り組み (いしかわ商工会ベスト店賞への推薦、合同チラシの企画)	ベスト店賞被表彰店舗の活力向上・認知度向上に寄与するほか、当会が企画・配布する合同チラシへの掲載を通じて、小規模事業者の販売促進に寄与する。	A
	小規模事業者の商品・サービスの認知度向上の取り組み	主に、ホームページやフェイスブックページなどの作成支援を通して、地区内外へ商品・サービスの情報発信を行い、認知度を高めることで新たな需要の獲得に寄与する。	A
地域経済活性化に資する取り組み	地域振興イベントの実施	倶利伽羅さん八重桜まつり、どまんなかフェスタ、つばた森林浴リレーマラソンを企画・運営する。	B
小規模事業者の支援体制の強化	他の支援機関との連携・情報交換	主に、行政や金融機関、JAとの連携ならびに情報交換会の実施によって、小規模事業者への支援体制を向上させる。	B
	経営指導員の資質向上	中小企業診断士等の公的資格取得や、公的機関・県商工会連合会の主催する課題別研修への参加を通じて知識・スキルを向上する。	A
	支援ノウハウを組織内で共有する体制	各経営指導員が取り組んでいる小規模事業者への経営支援について、各々の支援事例を持ち寄って勉強会を開催することで、具体的な事例を通じた資質向上を図る。	A

【評価基準】

A：目標を達成することができた、B：目標を概ね達成することができた、C：目標を半分程度しか達成できなかった、D：目標をほとんど達成することができなかった

検討会に参加した有識者からの主な意見

需要開拓支援として実施している合同チラシは良い取り組みであり評価できる。

個店の支援を強化していくため、数多くの事業の取り組みを実施するにはマンパワーが不足しているように感じる。町などの関係機関との連携を強化し、よろず支援拠点等も積極的に利用されたし。

マンパワー不足を感じる。目標設定が大きいため、取り組みごとにメリハリをつけると良い。経営発達支援計画の再申請時には核となる目玉事業を定めるのも一案と考える。

地域活性化の取り組みにおいても、事業は継続していくことで周知に繋がることから、PDCAサイクルをまわしつつ事業の継続に重点を置いた取り組みを実践していった欲しい

過去に当社は小規模事業者持続化補助金に採択されたが、補助事業後における事業計画の進捗確認等が思うようにできておらず、このような事業所は少なくないと考えられることから、フォローアップの重要性を感じる。

当会の取り組む経営発達支援計画の内容について把握できていなかった。今後は周知を徹底し、事業への積極的な参加を呼び掛けていきたい。